

禁煙科学 最近のエビデンス 2019/03

さいたま市立病院 館野博喜

Email:Hrk06tateno@aol.com

本シリーズでは、最近の禁煙科学に関する医学情報を要約して紹介しています。医学論文や学会発表等から有用と思われるものを、あくまで私的ではありますが選別し、医療専門職以外の方々にも読みやすい形で提供することを目的としています。より詳細な内容につきましては、併記の原著等をご参照ください。

2019/03 目次

KKE256 「再喫煙防止介入に関するコクラン・レビュー」

KKE257 「禁煙すると長期労務不能となるリスクが10%減る（フィンランド）」

KKE256

「再喫煙防止介入に関するコクラン・レビュー」

Livingstone-Banks J等、Cochrane Database Syst Rev. 2019 Feb 13;2:CD003999. (Epub ahead) PMID: 30758045

→再喫煙防止介入と、禁煙治療の延長は、はっきりと区別されない。

→それは、禁煙後いつ喫煙しても再喫煙とされるからである。

→再喫煙防止は、急性期の禁煙治療後や、禁煙開始後ある時点からの、再喫煙率を減少させる介入と考えられているが、急性期治療の期間はさまざまであり、再喫煙防止の効果を判定する時期も変わってくる。

→再喫煙防止研究には、すでに禁煙した人を無作為割つけするものと、これから禁煙する人を無作為割つけするものがある。

→方法論的には前者に優れる点があるが、今回は両者を含めて解析する。

→最も多く研究されている再喫煙防止介入は、スキルアップ法で、再喫煙しやすい状況を見抜くことを学び、乗り越えるための認知行動戦略を提供する。

→また他の行動介入としては、架空の喫煙誘発刺激、記述作業法、不快な喫煙体験、ロールプレイ、社会的支援、運動などがある。

→近年では、携帯アプリやSNSを用いて常識的なアドバイスを提供することが試みられている（禁煙の理由と重要性を思い出させる、喫煙の契機を避ける、喫煙欲求を乗り越えるアドバイス、気分の管理法など）。

→また、禁煙支援を延長するとか、薬物療法を延長したり再開したりする方法がとられている。

→特定の介入法が再喫煙率を減少させるか、2018年2月時点でメタ解析を行った。

→対象は再喫煙防止を目標とした無作為化もしくは準無作為化比較対照試験で、禁煙開始日から少なくとも6か月以上追跡されたものとした。

→対象者は、自力禁煙した人、強制的に禁煙環境に置かれた人（入院や軍事訓練）、禁煙治療プログラムに参加した人、とした。

→すでに禁煙した人を無作為割付した研究はすべて含んだが、禁煙前から無作為化割付した研究は、表題や抄録から再喫煙防止や禁煙維持が明瞭に判別できるものだけを取り上げた。

→主要評価項目は最長観察期間における禁煙者の数で、脱落者は喫煙とみなした。

→行動介入研究では、Mantel-Haenszelランダム効果モデルを用い、リスク比RRの統合重み付け平均を求めた。

薬物療法の比較では、固定効果モデルを用いた。

→今回の解析では新規15件を含む77件の研究がレビューの対象となった（全67,285人）。

1) 禁煙した人への介入試験

- 禁煙した妊婦・出産後女性への行動介入
 - 妊娠中の介入試験8件の統合解析では、妊娠終了時における有意な介入効果は示されなかった (n=1,523, RR=1.05, 95%CI 0.99-1.11)。
 - 出産後の介入試験15件の統合解析も同様に、介入効果は有意でなかった (n=4,606, RR=1.02, 0.94-1.09, I²=3%)。
- 入院患者への行動介入
 - 3件の統合解析では有意な介入効果は見られなかった。
 - NRT薬物療法の3件も同様であった。
- 自力禁煙した人への行動介入
 - 介入強度の低い自助介入試験5件の統合解析では有意な効果は見られなかった。
- 支援を受けて禁煙した人への行動介入
 - 公式な禁煙治療プログラムで禁煙した人を対象にしたスキルアップ介入試験が10件あったが、長期の効果は見られず (n=5,408, RR=0.99, 0.87-1.13, I²=56%)、介入強度の高低によっても差はなかった。
- 自力禁煙した短期禁煙者への薬物療法
 - ニコチンガムを用いた2つの大規模試験を統合すると、軽度の有効性が示された (n=2,261, RR=1.24, 1.04-1.47, I²=56%)。
- 禁煙治療により禁煙した人への薬物療法
 - ニコチンガムとニコチンインヘラーの2試験の統合解析では、有意な介入効果は見られなかったが (n=553, RR=1.02, 0.77-1.40, I²=0%)、NRTの使用遵守率は低く参加者の一部のみしか解析されなかった。
 - ブプロピオンの延長投与6件、ブプロピオン+NRT2件も、有意な結果にならなかった。
 - バレニクリンの延長投与の2件では、不均質性はあるが有意な効果が見られた (n=1,297, RR=1.23, 1.08-1.41, I²=82%)。
 - 食欲抑制薬リモナバンの長期治療効果を検証した研究がひとつあり、有意な効果が認められたが (n=1,017, RR=1.29, 1.08-1.55)、安全性の問題によりリモナバンは市場から撤退した。

2) 禁煙開始前に割付した介入試験

- 介入時間を対照群と同じにした研究
 - 個人介入と集団介入とで計10件の研究があったが、有意な介入効果は見られなかった。
- 対面による行動介入
 - 7件の研究が期間を延ばした対面介入の効果を検証していたが、有意な効果は見られず (n=699, RR=1.02, 0.80-2.19, I²=4%)、面談回数で分けても差がなかった。
- 禁煙支援に電話での介入を加える研究
 - 3件の研究のうち1つが有意な効果を示していたが、メタ解析では有意差が見られなかった (n=2,758, RR=1.18, 0.93-1.49, I²=67%)。
- 禁煙支援に印刷物による支援を追加する研究
 - 2件の研究があったが、有意な効果は見られなかった。
- コンピューターや携帯による介入を追加する研究
 - 3件の研究があったが、各々もメタ解析でも、有意な効果は見られなかった (n=597, RR=1.00,

0.73-1.37, $I^2=0\%$)。

・行動介入と薬物治療の併用

→NRT+電話カウンセリングの長期の研究が1件あったが、18か月後の効果は有意でなかった (n=443, RR=1.28, 0.94-1.75)。

・長期の薬物療法

→NRTの1年間投与研究 (KKE124) の対照群を分割し、24週と52週の治療効果をメタ解析したが、有意差は見られなかった (n=525, RR=1.07, 0.76-1.50, $I^2=0\%$)。

→再喫煙防止介入の効果はいまだ不明確であり、バレニクリンの延長投与に効果が見られるくらいである。

<選者コメント>

再喫煙防止 (Relapse prevention) 介入に関するメタ解析 (KKE54b) のアップデートです。

15件の研究が追加されましたが、残念ながらブレイクスルーになるような結果はなく、いつもながら? 「有意な効果は見られず」の繰り返しになりました。今回のメタ解析で有効性が見られた介入は、自力禁煙したての人にニコチンガムを使用させる、バレニクリンの投与期間を延長する、といった薬物治療のみであり、再喫煙しやすい状況乗り越えるためのスキルアップなど、行動介入については有意なものはありませんでした。

再喫煙防止は、禁煙支援における永遠のテーマですが、禁煙困難例への支援などと同様に、「この方法さえ使えば大丈夫」といった万能策がある訳ではないことがあらためて分かります。

それにしても、いろいろなアイデアを生み出して研究が行われているのだなと感心させられますし、全体平均では有意差がなくても、個々の支援においては再喫煙防止に役立つものもありそうに感じられました。

<その他の最近の報告>

KKE256a 「競争させる方法論による禁煙介入の効果 (コクラン・レビュー) 」

Fanshawe TR等、Cochrane Database Syst Rev. 2019 Feb 20;2:CD013272. (Epub ahead) PMID: 30784046

KKE256b 「タバコ離脱症状としての無快楽症に関する系統的レビュー」

Hughes JR等、Nicotine Tob Res. 2018 Aug 23. (Epub ahead) PMID: 30726957

KKE256c 「喫煙と2型糖尿病の関連についてのレビュー (GLP-1受容体作動薬が有効な可能性) 」

Yamine L等、Diabetes Res Clin Pract. 2019 Feb 5;149:78-88. (Epub ahead) PMID: 30735771

KKE256d 「産後の再喫煙を防止する行動変容技術に関する系統的レビュー」

Brown TJ等、Addict Behav. 2018 Dec 23;92:236-243. (Epub ahead) PMID: 30731328

KKE256e 「喫煙研究に基づく依存症とドーパミン神経化学に関するレビュー」

Petersen N等、Curr Opin Behav Sci. 2018 Oct;23:150-159. PMID: 30746429

KKE256f 「低線量CT肺癌検診時の禁煙介入に関する系統的レビュー」

Iaccarino JM等、Prev Med. 2019 Feb 10;121:24-32. (Epub ahead) PMID: 30753860

KKE256g 「粒子計を家に設置して警告を発し、コーティングも加えると屋内喫煙が減る: 無作為化比較試験」

Hovell MF等、Tob Control. 2019 Feb 15. (Epub ahead) PMID: 30770436

KKE256h 「喫煙者は筋萎縮性側索硬化症のリスクが増える: メンデル無作為化研究」

Zhan Y等、Ann Neurol. 2019 Feb 20. (Epub ahead) PMID: 30786056

KKE256i 「IQOSに3か月変更させる臨床試験 (その1、有害物質吸入量、満足度) 」: PM社

Haziza C等、Nicotine Tob Res. 2019 Feb 5. (Epub ahead) PMID: 30722062

KKE256j 「禁煙の臨床試験で除外される喫煙者の特徴: 精神疾患患者が最多」

- Webb Hooper M等、Ethn Dis. 2019 Jan 17;29(1):23-30. PMID: 30713413
 KKE256k 「チューリッヒ大学における肺移植後の喫煙率とその関連因子、再禁煙率」
- Hofmann P等、Transplantation. 2019 Feb 4. (Epub ahead) PMID: 30747844
 KKE256l 「集団認知行動療法後の再喫煙の原因に関する定性的研究」
- Lunden SE等、Front Psychol. 2019 Jan 30;9:2756. PMID: 30761059
 KKE256m 「妊娠前の3か月間に喫煙していると新生児の腹壁披裂リスクが40%が増える」
- Perry MF等、Am J Obstet Gynecol. 2019 Feb 18. (Epub ahead) PMID: 30790570
 KKE256n 「喫煙により関節リウマチ発症リスクは用量依存性に増加し、禁煙年数とともに減少する」
- Liu X等、Arthritis Care Res (Hoboken). 2019 Feb 21. (Epub ahead) PMID: 30790475
 KKE256o 「欧州各国における1980年代以降の禁煙者の動向」
- Pesce G等、PLoS One. 2019 Feb 7;14(2):e0211976. PMID: 30730998
 KKE256p 「加・米・英・豪4か国の家庭内での紙巻と電子タバコの使用状況調査」
- Nahas GJ等、Addiction. 2019 Feb 2. (Epub ahead) PMID: 30710468
 KKE256q 「2013-2014年中国の喫煙率と健康影響の認知度：17万人の調査」
- Zhang M等、Nicotine Tob Res. 2019 Feb 13. (Epub ahead) PMID: 30759252
 KKE256r 「成人の受動喫煙は下気道症状を増やすが肺機能に影響は見られない：欧州20年間の調査」
- Flexeder C等、Respir Res. 2019 Feb 14;20(1):33. PMID: 30764884
 KKE256s 「電子タバコ使用率は禁煙期間が短いほど高く、禁煙後6年を超えた人はほぼ使用していない」
- Farsalinos K等、Nicotine Tob Res. 2019 Feb 15. (Epub ahead) PMID: 30768136
 KKE256t 「養育者が喫煙者だと屋内で吸わなくても幼児の手から三次喫煙によるニコチンが検出される」
- Mahabee-Gittens EM等、Tob Use Insights. 2019 Jan 16;12:1179173X18823493. PMID: 30728727
 KKE256u 「子供のいる車内での禁煙法施行後に、喫煙者の自動車事故が非喫煙者と同程度にまで減った」
- Pederson LL等、Prev Med Rep. 2018 Dec 30;13:327-331. PMID: 30792948
 KKE256v 「ニコチン依存は入隊前兵士の自殺行動と関連する」
- Campbell-Sills L等、Am J Prev Med. 2019 Mar;56(3):420-428. PMID: 30777160
 KKE256w 「IQOS煙は紙巻きや電子タバコと同様に気道細胞を障害する（細胞実験）」
- Sohal SS等、ERJ Open Res. 2019 Feb 11;5(1). PMID: 30775377
 KKE256x 「加熱式タバコのNNKなど発癌物質の含量は吸い殻の方が増えている」
- Jeong WT等、Inhal Toxicol. 2019 Feb 11:1-7. (Epub ahead) PMID: 30741569
 KKE256y 「木炭燃焼型水タバコはCOの血管拡張作用により内皮障害指標FMDが見かけ上良くなる」
- Rezk-Hanna M等、Circulation. 2019 Feb 15. (Epub ahead) PMID: 30764644
 KKE256z 「女性の禁煙継続と体重増加はうつと体重懸念の程度により異なる」
- Salk RH等、Health Psychol. 2019 Mar;38(3):248-258. PMID: 30762404
 KKE256aa 「CureApp禁煙アプリの治療効果に関する前向き単群試験」：日本からの報告
- Masaki K等、JMIR Mhealth Uhealth. 2019 Feb 19;7(2):e12694. PMID: 30777848
<https://mhealth.jmir.org/2019/2/e12694/>
- KKE256ab 「低収入喫煙者への報酬を支払う電話支援には費用対効果がある」
- Mundt MP等、Value Health. 2019 Feb;22(2):177-184. PMID: 30711062
 KKE256ac 「タイ北部における禁煙介入の試み：無作為化比較試験」
- Aung MN等、Subst Abuse Treat Prev Policy. 2019 Feb 22;14(1):10. PMID: 30795811
 KKE256ad 「喫煙妊婦の子の24歳までの肺機能低下はGST遺伝子により差がある」

- Owens L等、Am J Respir Crit Care Med. 2019 Feb 6. (Epub ahead) PMID: 30726102
KKE256ae 「黒人のメンソール喫煙はMRGPRX4遺伝子型と関連する」
- Kozlitina J等、PLoS Genet. 2019 Feb 15;15(2):e1007916. PMID: 30768591
KKE256af 「グアンファンシン徐放錠は禁煙治療に有効な可能性がある」
- Verplaetse TL等、J Clin Psychopharmacol. 2019 Jan 30. (Epub ahead) PMID: 30707118
KKE256ag 「グルタミン酸受容体のGRIN3A遺伝子がニコチン依存に関与している：関連解析と分子機能解析」
- Chen J等、Addict Biol. 2019 Feb 11. (Epub ahead) PMID: 30741440
KKE256ah 「蛍光色素を用いたニコチンやバレニクリンの細胞内小胞体における動態解析」
- Shivange AV等、J Gen Physiol. 2019 Feb 4. (Epub ahead) PMID: 30718376
KKE256ai 「精神心理専門家が患者に禁煙支援する妨げとなっている因子の定性的研究」
- Smith CA等、BMC Psychiatry. 2019 Feb 4;19(1):54. PMID: 30717722
KKE256aj 「女性の喫煙はパートナーからのDVと早期閉経と関連する」
- Mishra GD等、Womens Midlife Health. 2018 Jan 15;4:1. PMID: 30766712
KKE256ak 「下水中ニコチン代謝物解析は年間タバコ消費量を正確に反映する（豪州）」
- Mackie RS等、Environ Int. 2019 Apr;125:184-190. PMID: 30716578
KKE256al 「タバコ州税が1ドル上がると住民の余命が1年延びる：誤差修正モデルによる推計」
- Baum A等、Tob Control. 2019 Jan 31. (Epub ahead) PMID: 30705247
KKE256am 「神戸市立医療センター西市民病院の禁煙外来10年間の成績」：日本からの報告
- Tomioka H等、Respir Investig. 2019 Feb 19. (Epub ahead) PMID: 30795920
KKE256an 「パッションフラワーの成分ビテキシンはニコチンの運動感作作用に拮抗する（ネズミの実験）」
- Bedell S等、Pharm Biol. 2019 Dec;57(1):8-12. PMID: 30707857
KKE256ao 「バレニクリンによるSDRIFEの一例」
- Cheng CY等、Indian J Dermatol Venereol Leprol. 2019 Mar-Apr;85(2):209-211. PMID: 30719986
KKE256ap 「家庭医は加熱式タバコの禁煙を勧めるべきである（レター）」
- Mohanty D等、J Fam Pract. 2019 Jan/Feb;68(1):E2-E3. PMID: 30724908
KKE256aq 「JUULを機に高ニコチン電子タバコは戦国時代の様相を呈している」
- Jackler RK等、Tob Control. 2019 Feb 6. (Epub ahead) PMID: 30733312
KKE256ar 「加熱式タバコCHTP1.2とTHS2.2は紙巻タバコより心肺毒性が低い（6か月のネズミ曝露実験）」：PM社
- Phillips B等、Food Chem Toxicol. 2019 Feb 12;126:113-141. (Epub ahead) PMID: 30763686
KKE256as 「加熱式などの害低減タバコの肺癌リスク減少効果実証のためにも市場拡大が必要」：PM社
- Hoeng J等、Intern Emerg Med. 2019 Feb 14. (Epub ahead) PMID: 30767158
KKE253at 「小白歯を用いたIQOSと紙巻きタバコ煙による着色比較実験」
- Zanetti F等、Quintessence Int. 2018 Dec 18;2-12. (Epub ahead) PMID: 30564805
KKE253au 「イスラエルにおけるIQOSの販売・陳列状況」
- Bar-Zeev Y等、Isr J Health Policy Res. 2019 Jan 14;8(1):11. PMID: 30642383
KKE253av 「タバコ葉抽出物質などを用いて医療廃棄物を化学肥料化する試み」
- Patil PM等、Environ Sci Pollut Res Int. 2019 Jan 10. (Epub ahead) PMID: 30632041

「禁煙すると長期労務不能となるリスクが10%減る（フィンランド）」

Airaksinen J等、Int J Epidemiol. 2019 Feb 27. (Epub ahead) PMID: 30815682

- 喫煙による健康被害は長期に渡るが、禁煙が労務不能を改善するかについての報告は少ない。
- スウェーデンとフィンランドから大規模な双子コホートの報告があるが、禁煙した者が少なかったり、禁煙時期が古かったりしており不正確である。
- 今回、フィンランドの2つの大規模コホートを用いて、“非無作為化コホート内疑似試験”による解析を試みた。
- 参加者はフィンランド公共セクター研究（FPS）と健康社会支援研究（HeSSup）から抽出した。
- 観察時期1に喫煙していて、観察時期2に喫煙状況が判明している労務中の者を対象とした。
- FPS調査は、1997-98年、2000-02年、2004年、2008年に行われ、7,393人が対象となった。
- 観察時期1から2を、1997年から2000-02年、2000-02年から2004年、2004年から2008年、とする3つの「試験」に見立てた。
- HeSSup調査は、観察時期1が1998年、観察時期2が2003年の、喫煙者2,701人のひとつの「試験」に見立てた。
- FPS参加者は2011年末まで、HeSSup参加者は2013年末まで、観察時期2以降の労務不能や死亡を、個人識別番号をもとに電子記録と照合した。
- 労務不能は、90日以上有病欠か、障害年金受給（300日以上有病欠で支給される）とした。
- 観察時期1における共変量として、年齢、性別、社会経済的状況（肉体労働か否か、教育レベル）、BMI、身体活動度、飲酒量、慢性疾患（喘息、心筋梗塞、狭心症、脳血管疾患、片頭痛、うつ病、糖尿病）を用いた。
- 観察時期2までに禁煙していた者を「治療群」、していなかった者を「参照群」とし、Cox比例ハザードモデルを用い、観察時期2以降に労務不能となるリスクを比較した。
- 再喫煙した者を除外するため、FPS調査で観察時期3の喫煙状況が不変であった者だけでも解析した。
- また2017年に開発された8項目の労務不能リスクスコアを用いて、観察時期1以降10年間のリスクを算出した。
- 8項目には、年齢、自己評価健康状況、前年の有病欠回数、社会経済的状況、慢性疾患の数、入眠障害、BMI、喫煙、が含まれる。
- 参加者全員をリスクスコアで3等分し、禁煙した場合としない場合のリスクを比較した。
- 観察時期2で禁煙していた者（2,964人）は、社会経済的状況が高く、若年で飲酒量が少なく、身体活動度が高く肥満が少なかった。
- 労務不能の予測因子は、高齢、女性、低い社会経済指標、肥満、低い身体活動度、であった。
- FPS疑似試験では、平均5.1年の追跡期間に90日以上長期病欠が1,682人（16.2%）に見られ、平均5.5年の追跡期間に738人（7.1%）が障害年金を受給した。
- HeSSup疑似試験では、平均8.4年の追跡期間に515人（19.1%）が長期病欠し、平均9.0年の追跡期間に190人（7.0%）が障害年金を受給した。
- 労務不能の3大原因は、筋骨格系や結合組織系の疾病、精神および行動の障害、外傷や中毒など外因によるもの、であった。
- 禁煙した者は喫煙継続者より、呼吸器疾患による労務不能が2倍多かった。
- 年齢、性別、社会経済的指標で補正した両コホートのメタ解析では、禁煙による労務不能のハザード比HR＝

0.88 (95%CI: 0.79-0.99) と有意に改善した。

→肥満、身体活動度、飲酒量、慢性疾患でも補正した多変量解析モデルでも、HR=0.89 (0.81-0.98) とやはり有意であった。

→障害年金受給については、年齢・性別・社会経済的指標で補正したHR=0.87 (0.73-1.02)、多変量解析モデルのHR=0.91 (0.81-1.02) と、同様のHRであったが有意ではなかった。

→FPS調査で、観察時期2と3の間で喫煙状況が不変であった参加者は3,480人あり、禁煙継続で補正したHRは、労務不能HR=0.90 (0.83-0.99)、障害年金受給HR=0.93 (0.76-1.15) であった。

→労務不能リスクスコアで参加者を3等分した10年間のリスク解析では、禁煙による全参加者の労務不能リスク低下は1.5% (16.9%が15.4%に低下) であった。

→高リスクの上位1/3の参加者については、禁煙による障害年金受給リスクの低下は、3.2% (35.4%から32.3%に低下) であった。

→禁煙には労務不能や障害年金受給を抑制する効果がある。

<選者コメント>

フィンランドから、禁煙による労働損失の抑制効果に関する報告です。

約1万人の喫煙労働者の労務不能状況を最長9年間調査し、途中で禁煙した者としなかった者で比較しました。本来観察研究ではありますが、全員喫煙者からスタートし、途中で禁煙した者としなかった者に分けてその後を追跡しており、喫煙状況の変化がその後に与える影響を見ている点で、動的な優れた解析になっています。

禁煙した人では、90日以上長期病欠になるリスクが11%減っており、障害年金受給のリスクも9%減っていました。また参加者を労務不能リスクスコアで3等分すると、一番リスクの高い喫煙者が禁煙した場合、障害年金受給が3%以上抑制されました。また喫煙者全体では、1.5%の労務不能リスク抑制効果がありました。

%で見るとわずかなようですが、仮にハイリスクの喫煙者1,000人が禁煙すると、32人分の障害年金支給が不要になり、喫煙者全体でも、1,000人禁煙するごとに15人の長期労務不能が回避できる計算になります。

観察研究としての限界はあるものの、職場の禁煙にまたひとつ重要なエビデンスが示されました。

<その他の最近の報告>

KKE257a 「IQOS、紙巻き、電子タバコの1回使用前後でのバイオマーカーや満足度比較：無作為化クロスオーバー試験」

Biondi-Zoccai G等、J Am Heart Assoc. 2019 Mar 19;8(6):e010455. PMID: 30879375

KKE257b 「各種禁煙薬物治療の体重増加抑制効果と禁煙効果に関するネットワーク・メタ解析」

Hsieh MT等、Obes Rev. 2019 Feb 27. (Epub ahead) PMID: 30816006

KKE257c 「再喫煙の神経生物学的・神経生理学的機序に関するレビュー」

Schmidt HD等、Mol Neuropsychiatry. 2019 Feb;4(4):169-189. PMID: 30815453

KKE257d 「2型糖尿病患者の喫煙とアルブミン尿の関係に関するメタ解析」

Kar D等、Acta Diabetol. 2019 Feb 24. (Epub ahead) PMID: 30799525

KKE257e 「喫煙が造血細胞移植患者の転帰に与える影響に関する系統的レビュー」

Abufarhaneh M等、Bone Marrow Transplant. 2019 Feb 26. (Epub ahead) PMID: 30809034

KKE257f 「医療者への禁煙支援デジタル教育の効果に関する系統的レビュー」

Semwal M等、J Med Internet Res. 2019 Mar 4;21(3):e13000. PMID: 30829576

KKE257g 「欧州呼吸器学会2018より (加熱式タバコのセッション要約含む)」

- de Vries M等、ERJ Open Res. 2019 Mar 4;5(1). PMID: 30847352
KKE257h 「禁煙の困難化は進んでいない：定性的レビュー」
- Hughes JR等、Nicotine Tob Res. 2019 Mar 14. (Epub ahead) PMID: 30868166
KKE257i 「UPPS-P衝動性尺度と未成年者の喫煙量は関連する：メタ解析」
- Bos J等、Drug Alcohol Depend. 2019 Feb 19;197:335-343. (Epub ahead) PMID: 30878884
KKE257j 「精神病・不安障害・気分障害とも禁煙補助薬3剤の効果や安全性は変わらない：EAGLES試験の二次解析」
- Evins AE等、J Clin Psychopharmacol. 2019 Mar/Apr;39(2):108-116. PMID: 30811371
KKE257k 「禁煙補助薬による神経精神的有害事象を生じやすい患者因子：EAGLES試験の二次解析」
- Anthenelli RM等、J Gen Intern Med. 2019 Mar 7. (Epub ahead) PMID: 30847828
KKE257l 「受動喫煙と慢性腎臓病罹患は関連する：韓国の横断・縦断調査」
- Jhee JH等、Clin J Am Soc Nephrol. 2019 Mar 7. (Epub ahead) PMID: 30846462
KKE257m 「定型文メール支援に過去喫煙者によるメール支援を加えると効果が高まる：探索的無作為化試験」
- White JS等、Nicotine Tob Res. 2019 Mar 20. (Epub ahead) PMID: 30892616
KKE257n 「紙巻き＋電子タバコ併用者にバレニクリンを使用させると両者の禁煙率が高まる：英国コホート研究」
- Hajek P等、BMJ Open. 2019 Mar 13;9(3):e026642. PMID: 30872554
KKE257o 「紙巻き＋電子タバコ併用者は紙巻きだけの使用者より子供の受動喫煙対策にルーズである」
- Drehmer JE等、Pediatrics. 2019 Mar 11. (Epub ahead) PMID: 30858346
KKE257p 「紙巻き＋電子タバコ併用者は紙巻きの本数は減るがニコチン使用量と依存は高まる」
- Martinez U等、Nicotine Tob Res. 2019 Mar 18. (Epub ahead) PMID: 30883640
KKE257q 「e-FTND、e-WISDM、PS-ECDIは紙巻き＋電子タバコ併用者の依存指標にもなる」
- Piper ME等、Nicotine Tob Res. 2019 Mar 15. (Epub ahead) PMID: 30874804
KKE257r 「EUの電子タバコ長期使用者の禁煙支援希望に関する調査」
- Etter JF等、Addiction. 2019 Mar 4. (Epub ahead) PMID: 30830703
KKE257s 「タバコ煙などからのアクリルアミドは想定以上にヒトの発癌に関与している」
- Zhivagui M等、Genome Res. 2019 Mar 7. (Epub ahead) PMID: 30846532
KKE257t 「室内禁煙にしている喫煙者が就寝中の寝室の空気は汚染物質が基準値を超える」
- Canha N等、Environ Pollut. 2019 Mar 11;249:248-256. (Epub ahead) PMID: 30893637
KKE257u 「妊婦の喫煙は用量依存性に乳幼児突然死と関連し禁煙で減る」
- Anderson TM等、Pediatrics. 2019 Mar 11. (Epub ahead) PMID: 30858347
KKE257v 「1980-2012年日本の冠動脈心疾患死亡減少のうち11%は喫煙率減少の効果である」：日本からの報告
- Ogata S等、Int J Cardiol. 2019 Feb 14. (Epub ahead) PMID: 30826193
KKE257w 「日本人男性労働者の1秒率低値は喫煙状況に関わらず受動喫煙頻度と関連する」：日本からの報告
- Inomoto A等、J UOEH. 2019;41(1):15-24. PMID: 30867396
KKE257x 「日本人の喫煙行動とBDNF・5-HTTLPR遺伝子多型の関連解析」：日本からの報告
- Ohmoto M等、Heliyon. 2019 Feb 15;5(2):e01234. PMID: 30815604
KKE257y 「IQOSの害低減研究を客観的な第三者に評価してもらった」：PM社
- Boue S等、Regul Toxicol Pharmacol. 2019 Mar 14;104:115-127. (Epub ahead) PMID: 30878573